

大鹿村中央構造線博物館たより



189号

2025年2月発行

TEL:(0265)39-2205

御嶽山からの火山噴出物の物騒な用途

昨年10月12日に、駒ヶ根市中沢にある駒ヶ根市民俗資料館内の一室に「登戸研究所平和資料館」が開設されたとのことで、見学に行ってきました。登戸研究所というのは、もともと神奈川県川崎市にあった旧陸軍の秘密諜報機関で、化学兵器の開発、風船爆弾・偽札の製造などをしていましたが、戦争末期の1945年3月に上伊那地方に疎開してきました。平和資料館となっている建物は、当時は中沢国民学校の校舎でしたが、登戸研究所第二工場として利用され、爆弾の製造などをしていたようです(*1)。



登戸研究所平和資料館（駒ヶ根民俗資料館内）

開館日：土日祝

※暖房設備がないため12月～2月は休館

※平日は予約制

連絡先：駒ヶ根市立博物館(TEL. 0265-83-1135)

疎開先に上伊那が選ばれた理由としては、大本営の疎開予定地が同じ長野県内の松代であったこと、登戸研究所の幹部に中沢出身の人がいたことなどに加えて、爆弾の暴発を防ぐのに必要な吸収剤の原料が現地で採取できることがあったようです(*2)。この原料として白羽の矢が立ったのが、約10万年前の御嶽山から飛んできた軽石が風化してハロイサイトという名前の粘土鉱物になったものです。

この風化軽石層は、御岳第一軽石層(0n-Pm1)と呼ばれており、上伊那周辺では10万年前より古い時代にできた段丘の地下などに埋もれています(*3)が、段丘を沢が侵食している場所では沢沿いに露頭が見つかることもあります(写真1)。平和資料館からほど近い駒ヶ根市東伊那地区は、御岳第一軽石層(0n-Pm1)が上伊那の中でも最も厚く堆積している地域として知られ、その厚さは2m以上に及ぶそうです(*4)。

中央構造線博物館には、御岳第一軽石層を採取してきたものが保管してありますので、興味のある方はどうぞ実物を見にお越しください(写真2)。(宮崎)



写真1 白色の御岳第一軽石層（伊那市西春近・戸沢川）



写真2 御岳第一軽石のサンプル

※参考文献

(*1) 登戸研究所平和資料館リーフレット(2024)

(*2) 登戸研究所調査研究会(2023) 信州伊那谷に來た謀報機関, 200p.

(*3) 須藤定久(2008) 古いフィールドノートから(2)伊那カオリン ―信州ローム層の粘土化を測る―, 地質ニュース 650号, p36-47.

(*4) 狐久保遺跡発掘調査団編(2009) 発掘調査報告 41: 狐久保遺跡, 駒ヶ根市教育委員会, 39p.